

## 水土里レポート 投稿様式

投稿月日	平成31年4月17日
タイトル	「スイゲンゼニタナゴ」産卵母貝調査2019!
水土里レポーター名	水土里ネット福山 佐々田 愛

平成31年3月30日、福山市環境保全課と盈進中学高等学校の環境科学研究部を中心とした有志により、広島県では福山市にだけ生息している「スイゲンゼニタナゴ」の産卵母貝の調査が水土里ネット福山の用水路である疏水百選にも選ばれた「芦田川用水」の丸川分水地点で行われました。

「スイゲンゼニタナゴ」は、最も絶滅の心配が高いため『種の保存法』で「国内希少野生動植物種」に指定され、許可のないまま「捕獲・飼育・販売・譲渡・放流」することは厳しく禁止されている貴重な魚です。

水土里ネット福山は、福山市で発足した「芦田川水系スイゲンゼニタナゴ保全地域協議会」に水利権者として参加しています。

毎年調査を行っている芦田川用水の丸川分水地点は、下流の水系に分水する施設で平成7年度に施工された用水路の改修では、環境との調和に配慮して自然護岸とともにスイゲンゼニタナゴを守るため川底に川砂を入れる整備をしており、調査に協力し水位を下げています。

スイゲンゼニタナゴを守る市民の会、盈進中学高等学校環境科学研究部、福山市環境保全課の職員の方々に加え、保全地域協議会のメンバーでもある福山大学海洋生物科学科の先生と学生さん、岡山理科大学専門学校アクアリウム学科の先生が初参加され調査が始まりました。



調査メンバーは胴長を履き、手探りで二枚貝を確認するため肘まであるポリエチレンの手袋をはめ調査しました。

護岸の桜の蕾もまだ固く水の中に入るには肌寒い日でしたが、調査メンバーは、水門に近い下流から一列に並んで調整池へ入り、横一列に並んで一斉に上流に向けて調査を開始です。這いつくばって、手で池の底を浚いながら貝を探していきます。

貝を見つけると手を挙げて報告、位置を地図に記載し貝の分布状況を比較します。今年は全体的に貝の量が減少していましたが、マツカサガイやイシガイといったスイゲンゼニタナゴの産卵母貝となる二枚貝を確認しました。

貝の調査後、タモ網等を用いて魚を採取しました。採取した魚も種類別に確認しました。今年も残念ながらスイゲンゼニタナゴは確認できませんでしたが、11種類の魚を確認しました。

水土里ネット福山は、ふるさとの生きた財産である「スイゲンゼニタナゴ」が将来にわたってこの芦田川水系に健全かつ安定的に生息できるよう、水環境の保全と安定した農業用水の取水配水に努めるとともに農業用水の果たす社会的役割の重要性を発信し、21世紀土地改良区創造運動を展開してまいります。



確認した貝や魚は元の位置に戻して調査は終了しました。



みなさん寒い中、調査お疲れさまでした！